



CONTENTS

なぜ、カーペットにしたのか？
10年ぶりに復活！熊本地区研
長野県上伊那南部地区研修会
東京都日野市研修会
スタディノート Ver. 7 新発売

中山和彦（21世紀教育研究所）
松並孝志（熊本市立東町小学校）
南波洋子（駒ヶ根市立東伊那小学校）
矢野 優（日野市立百草台小学校）
シャープシステムプロダクト（株）

なぜ、コンピュータ室をカーペットにしたのか？

中山和彦 二十一世紀教育研究所代表／筑波大学名誉教授

小中学校のコンピュータルームの多くは床にカーペットが敷かれている。何故かについて考えられた人は少ないのではないと思う。コンピュータルームはそうするものだと考えられているようである。

簡単に結論を述べると、小学校で最初にコンピュータルームが作られた竹園東小学校で床にカーペットが敷かれたので、その後の学校はそれに倣ってカーペットを敷くようになったのである。

竹園東小学校で何故カーペットを敷いたのかというと、既存の床の上に通信線や電線を配線し、たるきで枠を作り、その上にベニヤ板を張って床を高くした。ベニヤ板を張った上に通常の教室のような床工事をすると費用がかかるので、一番安いカーペットを買って敷いたのである。カーペットを敷くことにより、子どもたちは床の上に座って作業をすることもでき、いろいろ便利でもあった。

その結果、コンピュータルームを作ろうと見学に来た先生方の学校では、高くした床の上にカーペットを敷くのは当然のようになったのである。

夏季研修会
だより

10年ぶりに復活！熊本地区研

松並孝志（熊本市立東町小学校）

「熊本県ICT活用推進夏期研修会」と銘打ち、J A E T熊本大会実行委員会と21世紀教育研究所主催で、熊本地区研を10年ぶりに開催することができました。

平成18年8月7日（月）、東原義訓先生においでいただき、熊本市立東町小学校のコンピュータ室を会場として、念願の熊本地区研を開催しました。熊本では、今から10年ほど前に、2年連続して中山和彦先生においでいただき、C A Iの研修会を行ってきました。熊本市内の小学校には、数年前に「ひとりでスタディ」のシステムが導入されました。しかし、C A Iに対する偏見等もあり、なかなか広がり

を見せることもなく、今日に至っていました。そして、ようやく今年、地区研修会開催の運びとなったわけです。

1日限りということで、より充実した研修会にするために、担当者一同日程については頭を悩ませていました。しかし、研修会前日、熊本入りをされる東原先生を空港まで迎えに行き、そこからホテルまでの車中で、東原先生に日程案をお渡しし、熊本の実情をお話する中で、ものの見事に研修会の内容が決まってしまいました。翌日の研修会への期待が高まってきました。

研修会は、まず東原先生の講演から始まりました。

最初にスタディノートのマップ機能を使って、受講生の方々のICTについての意識を分類し、そしてその結果を基に、CAI授業の意味とその推進について、お話を進めていかれました。その中で、「ICTは教師の力を補い拡大するもの」という東原先生の言葉が、受講生の皆さんの心に響いたようで、最後の感想にも、この言葉が多く書かれていました。

次に、Study21の算数教材を用い、コースウェアの体験を、続いて、個に応じる仕組み「32-18」へと進んでいきました。ある子どもになりきって、それにどうコースウェアが対応していくのかを体験してもらいましたが、「子どもは正しく間違える」ということを、受講生の皆さんはあらためて認識できたようです。このことが、午後からのコースづくり体験でも生かされました。

東原先生には長野への移動ぎりぎりまで、ICTを活用した授業の可能性についてお話していただき、スタディノートを使った実践事例紹介へとつな

げていきました。

受講生の感想の一部です。

◆『ふだん着感覚でICTを活用しよう』という言葉をきいて、とても楽になりました。

◆学校でコンピュータを使う目的が分かり、とても良かった。

◆子どもたちのつまずき等をしっかり考える大切さを学んだ。

◆東原先生のお話で、ICTの活用について考え方を整理することができました。分析することの大切さを学びました。

など、参加してよかったと感じていただけたと思います。1日という大変限られた日程でしたが、熊本での新たな一歩を踏み出すことができた研修会となりました。

東原先生、SSPの皆さん、本当にお世話になりました。

夏季研修会
だより

長野県上伊那南部地区研修会

南波洋子（駒ヶ根市立東伊那小学校教頭）

上伊那南部地区夏休みコンピュータ活用研修会

〔確かな学力と豊かな心の育成のために ―授業に生かすコンピュータの活用―〕

- | | |
|--------|--|
| 1 目的 | 授業におけるコンピュータの活用事例とその教育的効果を知り、自分でも授業に活用できるようにする。 |
| 2 開催日 | 平成18年8月8日（火） |
| 3 会場 | 駒ヶ根市立赤穂東小学校 |
| 4 参加対象 | 南部教職員会情報教育委員・視聴覚教育委員・上伊那地区各小中学校希望職員約30名 |
| 5 講師 | 東原義訓先生（信州大学教育学部附属教育実践総合センター教授） |
| スタッフ | 太田 宏（伊那西小教頭） 南波洋子（東伊那小教頭） 湯本英俊（赤穂東小教頭）
河西一樹（塩尻西小教諭） 五十嵐啓一（赤穂小教諭） 梅沢さん 宮原さん（SSP） |

日程と内容

○研修Ⅰ（午前） 9:10～12:20

(1) 実践発表及び演習（担当：河西一樹）

①基礎・基本の定着のための活用実践

インタラクティブスタディの活用と教育的効果

・基礎基本の充実、インタラクティブの効果、実習（わり算の誤答を考える）

・教材の体験 塩尻市の実践

(2) 講演「確かな学力とコンピュータ」 東原義訓

・なぜ学校にコンピュータを導入するのか

学力の向上を目指しての授業改善のために活用でき

る。

・道具が人間の力を補い拡大するのと同じように、コンピュータは人間の脳の力を拡大させる。

・ICTは教師の力を補い拡大する。

・道具としてのコンピュータの目的

子どもを理解するため、他

・「授業改善のため」と「情報活用能力の育成のため」の両方のバランスをうまくとって授業に活用。

○研修Ⅱ（昼食・午後）12:30～16:30

(1) ワークショップ

「駒ヶ根グルメマップを作ろう」（担当：太田 宏）

①グルメマップの作成の概要説明、グループ打ち合

わせ (4 グループ)

②現地調査活動 (昼食を食べながら)

ソースカツ丼屋、ラーメン屋

③スタディノートでグルメマップを作成

④プレゼン、評価

グループ内で和気あいあいと相談、分担しながら取材し作成。工夫を凝らしながら、人間味あふれる見ても楽しいマップができあがった。

(2) 講評

(担当: 南波洋子)

・東伊那小6年「ふるさと探検マップ」作成の指導と作品紹介

・研修を振り返って

参会者の感想から

①東原先生の講演

・コンピュータ活用の基本原則をしっかり教えていただいた。なぜコンピュータを使って授業をするのか本質的な部分で話を伺えた。パソコン教育の必要性、パソコンを使って学習を進めるという意義が確立してきたように感じた。

・コンピュータのLANの教室普及率が駒ヶ根は低いということに驚かされた。パソコンを子供たちのために導入する理由として、授業の改善のためと情

報活用能力の育成であることを覚えておきたい。

・とても大きな範囲の話だったので抽象的で難しい気がした。しかし、スタディを使うことの意義について考えさせられるお話だった。

②実践発表の感想

・ポートフォリオ、インタラクティブスタディ、実際に活用できればとても有用である。

・すごい一言。やればやっただけのことがあるので学力アップにもつながり、実践してみたい。

・先進地域の実践には目を見張るものがあった。一朝一夕にはできないかもしれないが、今ある状況を最大限に生かしていきたいと思った。

・具体的に活用の方法がわかった。演習・実習が楽しかった。

・お昼ごはんをみんなで食べられるとは思っていなかった。ちょっと楽しかった。いろいろなアイディアが参考になった。

③今回の研修はあなたの二学期からの授業に役立つと思いますか

・ポートフォリオは、自分自身のために使えそうな気がします。

・はい。スタディノートを使ってみようという気になりました。

夏季研修会
だより

東京都日野市研修会

矢野優 (日野市立百草台小学校長) 橋本忠明 (日野市立日野第四小学校副校長)

日野市教育委員会ひのっ子教育 21 開発委員会 (ICT活用研究)

日 時 平成 18 年 8 月 17 ~ 18 日

場 所 日野市教育センター

日野市のすべての子ども達が ICT を活用して学習する日は間近です。コンピュータが特別なマシンではなく、ごく自然な学習道具となります。コンピュータをノートや鉛筆のように使う子ども、コンピュータの画面を見ながら議論し考えを深める子ども、そんな子ども達の姿がもうすぐそこまできます。自分の作品が蓄積されたり、間違えたことに対する適切な助言が即座に提供されたり、今までにない新しい学習が教室で行われるようになります。

平成 17 年度、その第一歩として日野市立夢が丘小学校と日野市立日野第四小学校が研究指定校として授業改善に取り組みました。

そして二年目の今年、すべての小中学校にコンピュータと校内 LAN が設置され、日野市の全教職員に一人一台のノートパソコンが配布されます。日

野市ではそれに伴い、インフラの整備と平行し教員の研修や教材の開発も進めています。

本委員会「ひのっ子教育 21 開発委員会」はその教材開発を担当しています。日野市の委嘱事業で、インタラクティブスタディーの教材開発です。今年度は算数科に絞り、市内の授業のプロが教材開発に取り組んでいます。それだけにソフト開発の議論は算数教育の本質にせまる話になるのが本委員会の特徴です。

しかし、インタラクティブスタディーの機能を十分に理解せずには教材開発はできません。そこで、信州大学教授であり、日野市の ICT 推進のアドバイザーでもある東原義訓先生の指導のもとでこれまで研究を進めてきました。この夏、8 月 17 ~ 18 日の二日間、集中的に教材開発に取り組みました。開

発者である東原先生に直接お話を伺えることはとても幸せなことです。技術サポートも万全でICT教育の先駆的実践者である長野市立犀陵中学校の成田顕宏先生、千曲市立埴生小学校の堀越則夫先生、長野市立三輪小学校の橋澤宏文先生が我々の後ろに構えていただき、困ったことにすぐ対応していただきました。日野市教育委員会ICT活用推進室統括指導主事五十嵐俊子先生はじめ、梶野明信指導主事、メディアコーディネータの皆さんも私たちを完全サポートしてくださいました。そうした中で、一つ一つ具体的な課題を解決しながら作り上げてきました。この技術の積み重ねがいずれ日野市内の先生方に技術サポートする力となっていくと感じました。

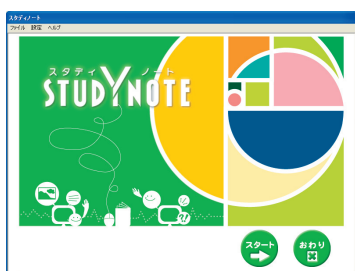
開発中のソフトは、1年「繰り上がりのある足し算」2年「図を使って考えよう」（減法逆の加法問題）

3年「あまりのある割り算」4年「角度」5年「計算のきまりをみなおそう」「少数のわりざん」6年「速さ」ですが、委員会発足当初の話し合いで「数学的な考え方の育成」のプログラム開発ということに挑戦しています。ドリルソフトと違って大変難しいことですが、とにかく作り上げ子ども達が使う様子を実際に見る中で改善していくことが重要であると考えています。そこで、2月には、開発した学習ソフトを用いた研究授業を市内に公開し、プログラムを改善したうえで全市に配布する予定です。

まだまだ、始まったばかりですが、先進校の研究に学び、研修にも積極的に参加しながら、この委員会が可能性を秘めた魅力ある情報を発信していくことが使命だと考えています。ICT環境が授業改善の起爆剤となると確信しこれからも努力していきます。

スタディノート Ver. 7 新発売！

スタディノートは新しい機能とデザインにより、新たな進化を遂げました。ぜひご活用ください。



■学ぶ意欲の向上を支援するシール機能

電子掲示板に掲示されているノートに、先生がシールを貼る機能を新しく追加しました。優れた気付きやアイデアに溢れた掲示に対して、先生がシールを与え、評価・褒賞することにより、子どもたちの学習意欲の向上を支援することができます。

■自分のマップ機能で情報を整理・分析

自分がこれまでに作ったノートをマップで直感的に整理、分析で

きることで、これまでの道筋の振り返りや進捗の確認、調べたことの整理やこれから調べることの決定が行えます。

■ノート一覧をサムネイル表示



ノートデータをサムネイルで一覧表示する機能を新しく追加、目的のノートデータをより簡単に見つけることができます。また「ノートを読もう」で同時に複数のノートデータを表示することも可能になりました。

■使い方や活用のヒントを知らせるアシスト機能

基本的な使い方はもちろん、一歩進んだ活用のためのヒントや、実際に公開されている活用事例など、豊富な情報をご覧いただけます。

■その他の新機能

- ・ゲストクラス機能
- ・Windows アカウントとの連携機能
- ・電子メールの複数宛先対応
- ・自分の掲示の、掲示板・データベースの区別表示
- ・名簿の前年度復帰機能、等

■価格体系

5年間版と、年度予算で導入いただける単年度版をご用意しました。※詳細は、SSP 担当者までお問合せください。

【編集後記】 今回の ECOnews から、東原と余田が、交代で編集を担当します。今回は、夏の研修会の中から東原が参加した地域からお寄せいただいた報告をお届けしました。原稿のご協力、ありがとうございました。

発行人： 21 世紀教育研究所

Educational Research Institute for the 21st Century

代表 中山 和彦

〒 305-0045

茨城県つくば市梅園 2-33-6

電話 029-850-3321

FAX 029-850-3330

Email econews@eri21.or.jp

URL http://www.eri21.or.jp